

平成 29 年度 肝属川学識者懇談会 議事概要

○開催日時：平成 29 年 9 月 8 日（火） 13:30～15:00

○開催場所：大隅河川国道事務所 3 階大会議室

○主な意見等（青字は事務局からの回答）

【資料 3：肝属川水系河川整備計画の点検について】

- ・資料－ 3、8 ページで、上流で雨が降った時に下流で急に水位が上がった場合に、どのあたりで水位が上がりやすいというのを把握しているのか、そういったときにどういった対応をしているのか。
- ・危険箇所というものを設定しており、流下能力の低いところ、堤防の低いところを調書にまとめている。それを出水期前の点検時等に市町村に配布、実際に現地を確認し、どういった水防ができるか、背後地等の状況を見て、どうやって避難させればいいのか、ということを確認している。
- ・資料－ 3、24 ページで、シラス堤強化対策のモニタリング実施で、測っているのは地下水水位か。
- ・堤体内の水位を測る機器を設置している。
- ・資料－ 3、30 ページで、肝属川の水質がかなり改善されている。この大きな要素としては下水の管理、畜産の排水処理等の普及が進んだためと考えてよいか。
- ・下水道の接続率、合併浄化槽の整備は向上している。畜産や工場の排水についても法律等ができ、厳しくなっているということも関係していると思われる。また関係機関では昼夜問わず巡回もされている。もちろん住民の意識も変わってきている点も大きいと思われる。
- ・資料－ 3、30 ページで、3 号排水路の横に浄化施設があるが、施設の稼動前後では水質に違いはあるのか。
- ・BOD 値で概ね 2 割ほど浄化している。
- ・朝日橋は BOD にばらつきがある状況が続いているが、3 号排水路の上の方か。
- ・朝日橋は 3 号排水路の下流にあり、鹿屋市街部に位置している。
- ・資料－ 3、20 ページで、想定し得る最大規模の降雨はどのように決めているのか。また、配布しているハザードマップには設定条件は書いているのか。

- ・想定し得る最大降雨は、日本全国の観測最大雨量をもとに、流域面積毎で決められている。肝属川は777mm/24hrであり、その雨を降らせて氾濫させたのが浸水想定区域図である。破堤は200ピッチで設定しており、その重ね合わせを示している。また、前提条件についても同図中に示している。また、市・町は避難所等を示したハザードマップを別途作成予定である。

- ・資料－3、30 ページで、水質に関しては住民の方の意見をくみ上げるようなシステムを考えてもいいのではないか。

- ・鹿屋市では、地域の住民に環境モニターを委託しており、垂れ流し等があればすぐに通報するような取組がある。

【資料4：肝属川直轄河川改修事業について】

- ・資料－4、7 ページの基本方針対象規模の洪水というのは、整備計画対象規模の洪水より規模が大きいということか

- ・大きいということである。

- ・基本方針対象規模というのは、元々の基本方針の中身で決められているのか。

- ・整備計画では俣瀬地点で2,000m³/s、基本方針では2,500m³/s という規模の洪水を想定しており、その浸水状況を示したものである。洪水の量が多いので、方針規模の方があふれる水が多く、範囲が広がっている。

- ・言葉ではわかりにくいので、7 ページに検討対象規模の流量を書いておくこと。

【資料5：肝属川総合水系環境整備事業について】

- ・資料－5、13 ページで、水辺整備のB/Cが高いが、これは水辺整備が目に見えるものだから、というのが大きいのか。

- ・地元河川協力団体の活動もあり、河川に親しむ土壌が整っているということが考えられる。

- ・かわまちづくりの協議会や作業部会が経年的に実施されており、いい意味で集約しながら進められているように思う。いい計画なので今後も進めていってほしい。

- ・資料－5、8 ページで、水質、流量、除去率とあるが、除去後の水質の数値を書くべきである。また除去率が低いため、流入量のある程度制限するなどして除去率を上げていく必要がある。

(以上)